

# ボランティア通信

## ～神奈川中学校＆六角橋中学校＆老松中学校～

.....

多くの気づき

英語英文学科3年 桜井素雅

### ○目次○

#### 【神奈川中学校】

英語英文学科 3年 桜井 素雅
--------------------

人間科学科 3年 嶋 由加里
-------------------

#### 【六角橋中学校】

電子情報フロンティア学科 4年 木下 貴雄
--------------------------

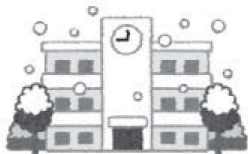
情報システム創成学科 4年 中村 伸平
------------------------

人間科学科 3年 杵塚 悠
------------------

人間科学科 1年 上野 実恵子
--------------------

#### 【老松中学校】

人間科学科 4年 大谷 絵里
-------------------

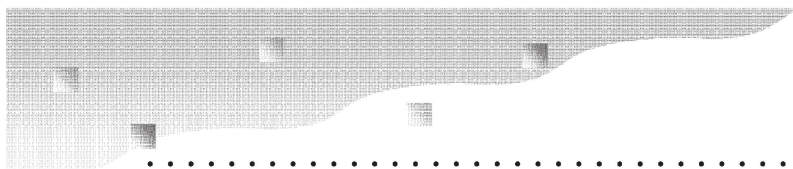


今年度の3月から、神奈川中学校で個別支援級のボランティアをさせていただいています。個別支援級の授業形態は1～3年生が一緒に活動し、教科によって一斉授業や3クラスに分けて行きます。また、「作業」という教科では、清掃、手芸や花植えなど様々なことをしていることが特徴です。

後期、私は2つの目標を立てました。1つ目は、生徒ともっとコミュニケーションをとることです。私は前期、生徒と関わろうと意識していましたが、なかなか勇気が出ず、いつも一歩引いたところから見ていたという感じでした。しかし、それではいつまでたっても生徒の事を知ることができないと思い、生徒と同じ目線で行動しようと決めました。例えば、休み時間はどろんどろん生徒と遊んだり話したりすることです。実際に遊びの輪の中に入らないとしても、同じ空間にいて、普段見られない一面が見られたり、また生徒の変化に気づくことが増えたりしました。さらに、授業時の机間巡視をする際、なるべく生徒と同じ目線にすることです。今までは上から見下ろす感じで、集中していない生徒がいたら注意をしていました。しかし、それでは生徒がどういう所につまずいていたり、どうして集中できていなかったりしているかに気づきにくいことがわかりました。そのため、机間巡視をする際は、そのような生徒のつまずきや状況を把握するように意識してみたら、以前よりも良い点や問題点に早く気づけるようになりました。

2つ目は、英語の授業のサポートを積極的にすることです。個別支援級では、英語の授業は一斉にやりALTが1人で担当します。そのため、生徒は英語での指示がわからずついて行けなかったり、ALTも授業のやり方に戸惑っている印象を受けたりしました。ある日、授業開始前にALTの所へ行き、自分が英語の先生を目指していることを伝えました。すると、授業でALTの相手をしてデモンストレーションをしたり、ゲームのルール説明を日本語ですることになりました。ALTが、授業後に「また手伝ってほしい」と言ってくれて嬉しかったです。私自身も、将来英語の先生になったときに、ALTとのチームティーチングをすることが多くあると思うので、これからも積極的に関わり勉強させていただこうと思いました。さらに、何よりも嬉しかった事があります。それは普段ふてくされてあまり授業に参加しようとしていない生徒が、そのときに「説明がわからないから、教えてください」と私に求めてきたことです。その時、私は、もっと生徒のために自分ができる事があるのではないかと感じました。

私は今まで、学生のボランティアであるという立場から、どこか遠慮している自分がいました。しかし、生徒からすれば、私も「先生」なのです。この責任を感じながら、今後もボランティアで多くのことを学んでいきます。



## 生徒とともに成長する

### 人間科学科3年 嶋由加里

一昨年の11月から、神奈川中学校の個別支援級(特別支援級)でボランティア活動をしている。活動を開始して2年が経ったが、この2年間で振り返ってみると、生徒との関わり方に関することを自分の目標として活動してきた。生徒と親しくなること、そして親しくするだけではなく、時には叱れる存在になることなど、週に一度の活動だが、少しずつ目標に向けて活動した。その結果、生徒との距離が縮まり、どの生徒とも一日一度は必ず話ができるようになった。そこで今期の目標は、生徒との関わりに関することから一度離れ、個別級の先生方の動きをよく観察することに決めた。授業から休み時間の様子まで、今まで見落としていた先生方の動きをよく見ることで、自分の活動やいずれ教師になったときに活かせることを学びたいと思ったからだ。また、今までは午後に、大学の授業が入っていたため半日の活動であったが、今期は一日活動できるので先生方の一日の動きを見ることができた。

神奈川中の個別級には4名の先生がおり、1年生から3年生までの18名の生徒が在籍している。朝の会では2名の先生が、連絡事項などを生徒に伝える。初めの先生がほとんどの連絡事項を生徒に伝えるので、次の先生は特に生徒に伝えるべきことは残っていない。その際、次の先生は昨日や今朝に自分自身や家族に起きた出来事をユーモアを交えて生徒に伝えていた。その話を聞いた生徒たちは、とても楽しそうに先生の話聞いており、生徒の興味を引く話し方の工夫が感じられた。また、授業中の生徒とのやり取りにも工夫があった。発問に対する生徒の答えが合っていないくても、答えを尊重しつつ正しい答えに導いていた。答えた生徒も嫌な気持ちになっっているようには見え、むしろ正しい答えに納得している様子が見られた。

そして、放課後に行われる入試の面接の指

導にも参加させていただく機会があった。普段は大きな声で話す元気な生徒が、とても真剣に面接の練習をしている姿に驚かされた。同じように先生方も普段生徒と接する様子とは異なり、見知らぬ面接官を演じていて熱心に指導されている様子が伝わってきた。また、その面接の練習のあとには会議が予定されており、さらに練習の前に受け持つ部活の生徒の指導に当たっている先生もいた。そして休み時間には生徒と遊ぶ先生もいれば、連絡ノートを記入している先生もおり、先生方の動きをよく見ることで教師の業務の多さに改めて驚かされた。

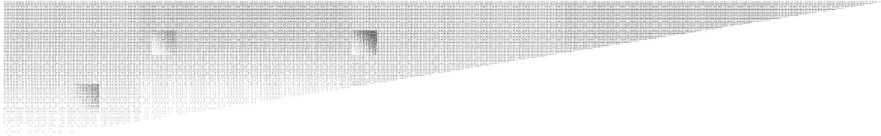
現在、私が活動を始めた当時の1年生は3年生になり、進学に向けての準備をしている。2年間活動していると、それだけ生徒との関わりが長く、卒業してしまうことを寂しく思う。しかし、2年分の生徒の成長を近くで見ることができたのはとても貴重で、ボランティアを続けてよかったと感じる。今後も活動を続け、先生方の動きから学び取り、生徒とともに自分も成長していきたい。

## 経験に勝るものなし

### 電子情報フロンティア学科4年 木下貴雄

学校ボランティアを始めた理由は、教育実習を控えていたこともあり、少しでも学校の現場を知りたいと思ったからでした。活動の際には、先生がどのように授業をしているのかはもちろん、先生のはたらきかけによって生徒がどう行動するかを注意深く観させていただいています。実際に教育実習を経て、ATをしていて学んだことを活かせる場面がいくつかありました。

たとえば生徒とのコミュニケーションです。ATを始めた当初、生徒の輪の中に入っていくことは思った以上に難しいと感じていましたが、生徒に対し遠慮し過ぎずに話しかけてみると、案外生徒のほうも心を開いてくれました。また、日頃から生徒との関係が作れていることで、生徒が授業でわからないことがあったときにより自分に質問しや



すくなることを感じていました。ATの活動を通してコミュニケーションの取り方や大切さを学ぶことができていたため、教育実習でも生徒と積極的にコミュニケーションをとることができました。

また、「生徒に教える」という体験ができたことも、非常に有意義であったと感じています。私が当たり前のように理解できていることも、当然初めて学習する生徒が簡単に理解できるとは限りません。そこで、問題が解けずに困っている生徒に対し、どこまで理解できているのか、そして何が理解できていないのかを明確にし、「頑張って考えればわかる」程度のヒントを与えるということを活動の中で心がけていました。それはすなわち「相手の立場になって考える」ということであって、自分が授業を作っていくうえで、この体験は大いに役に立ったと思っています。

教育実習を経たことで、先生方が何気なくやっているように見えた授業がこれほどまでに難しいのかということ、身をもって知りました。教育実習後の活動では、六角橋中の先生方の指導力の高さを改めて感じています。振り返ってみると自分の授業は常に一杯一杯でしたが、六角橋中の先生方を観ると、適度に雑談を挟みながらも授業の目的とするところにしっかり生徒を導いています。生徒をしっかり授業に参加させるという意味では決して雑談が無駄なものではないと感じましたし、そのくらいの余裕を持って授業を組み立てる必要があると強く感じました。

昨年の10月からATを始め、ATとしての経験は1年を超えました。長く経験していることで始めたばかりのころに比べ、新鮮に感じるものが少なくなってきたしまっていることは否めません。しかし、これからもアンテナを敏感に張り巡らせながら多くのことを感じ取り、さらに経験を積んできたからこそわかるようなことを学んでいきたいと思っています。

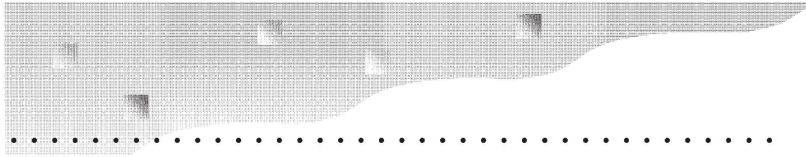
## コミュニケーションをとること

### 情報システム創成学科4年 中村伸平

六角橋中学校に数学のATとして活動させていただくようになってから、1年が経ちました。学校の雰囲気にも慣れ、休み時間などに生徒から声をかけられる機会も増えて、嬉しさと同時にATとして相応しい行動をとらなければならないと責任を感じながら毎週活動をしています。

今年度後期に入り、私は「先生と一緒に授業をつくる」という目標をたてました。今までの自分の活動を振り返ると、授業中生徒に対して注意がうまくできないことが多く、先生に対しても疑問に思ったことや相談を積極的にできずにいました。ATとして少しでも授業支援の力になる為にも、先生方と積極的にコミュニケーションをとりながら連携して授業をつくらなければならないと思い、この目標をたてました。今までは漠然と机間巡視をしながら、手が止まっている生徒に声をかけるという支援でした。しかし、この目標をたててからは、生徒にどんな声をかけをすべきなのか、個別に教えるときどんな教え方がよいかをより考えるようになりました。その中で、自分の中でどうすべきか悩むことも増えてきました。例えば、授業中ずっと下を向いて授業に参加しようとしていない生徒に対して、「プリント進んでいるから書こう」と言って授業に参加させようと促すような声かけをしても、なかなかやろうとしない生徒がいました。どんな声かけをすればよいか悩んで、授業後に先生に相談すると、あの生徒はこういう特徴があるからこんな風に声をかけてほしいと具体的にアドバイスをいただくことができました。

毎日生徒の様子を見ていて、特徴を把握している先生のアドバイスはやはり的確で、その生徒にあった声かけをする必要があると改めて感じました。生徒の特徴を把握できていない点を補うためにも日頃から生徒と接している先生の意見をしっかりと取り入れていきたいと思いました。また、先生との意見交換をする機会も増えました。授業前に生徒の様子を見てほしいポイントを教えて



いただき、それについて授業後に自分が感じたことを先生に伝えながら、次に同じ内容の授業をするときはこういう風に変えてみよう、意見交換を元に授業に繋げることができました。先生とコミュニケーションをとりながら意見交換をすることで、注意すべき点が共有でき、私自身も以前より具体的に行動することができるようになってきました。

先生方とコミュニケーションをとり、一緒に授業をつくろうと意識するようになり、少しずつ本当の授業補助ができていないのではないかと思います。また、意見交換をすることは、今後自分が教壇に立ったときどんな点に注意すべきか学ぶことに繋がっていると感じています。まだまだ至らぬ点も多いですが、今後も先生や生徒とのコミュニケーションの中から多くのことを学んでいきたいです。

## 生徒との関係性がいかに大事か

### 人間科学科3年 杵塚悠

私は昨年1月から、六角橋中学校でATとして活動しています。主に授業の補助を行いながら、生徒と共に授業を受けることや、放課後の部活動の指導を行っています。私は保健体育の教師を目指しているため、保健体育の授業があればその授業を見ます。しかし、時間割によっては無い場合があります。そんな時は、他の教科の授業を参観したり、特別支援級で生徒と一緒に活動しています。

今年度の活動の目標は、「先生の生徒への接し方(指導、注意、何気ない会話など)を学び、吸収すること」です。まず、なぜこの目標にしたかというと、昨年3か月ほど活動して、先生方と自分の違いはなにかと考えたとき、一番に分かったのが生徒との距離感であるからです。先生方は、授業中は生徒に学習させるために、分かりやすい指導を行っています。ここでは、距離感は少し遠いです。しかし授業が終われば、休み時間に生徒と何気ない会話をしたり、一緒に遊んだ

り、距離感はぐっと近くなります。逆に、生徒が問題となる行動を起こせば、教師の立場として注意をします。このとき距離感は遠くなります。このように状況に応じた距離感を自然と取っていました。自分の行動を振り返ると、まったくというほどできていないのです。なにから始めるか考えたとき、まず生徒と多く話をしようと考えました。休み時間、放課後をうまく使い、また、部活動を見ているサッカー部の生徒を中心に、積極的に話しかけていきました。そうしているうちに、生徒からも積極的に話をしてくれるようになり、生徒との距離は近づいてきています。

しかしながら、自分はまだまだ先生方には程遠いと感じました。それはなぜかという、ちょうど活動日が文化祭だった時のことです。その日は生徒も楽しみな日であったため、普段よりも落ち着きがなかったのです。また、校外活動であったため、より生徒はウキウキしているように見えました。そんなとき、静かにしなければいけない場面が生じました。自分の近くにいた生徒が騒いでいました。注意はしましたが、静かにはなりません。結局周りにいた先生が注意して静かになったのです。自分の無力さを痛感しました。しかし、同時に学びました。注意するときのさまざまな方法です。わざとその生徒の近くに行き、視界に入ること、理由づけを生徒に直接話すことなどです。また、教師の表情やしやべり方も生徒には影響しているように見えました。これらのことも、生徒との距離感が重要でないかと感じました。さまざまな経験が勉強となっています。今後は特に、経験したことを実際に自分で試すことをし、より生徒との距離感を意識し、関わり方も考えながら活動していきたいです。





## 工夫

### 人間科学科1年 上野実恵子

私は今年度の10月から六角橋中学校で体育のATとして活動しています。主に体育の授業の補助に入らせていただいています。その他にも2年8組に朝学活の時間や総合の時間などはお邪魔しています。私が中学校へ行く日の時間割は総合の授業が必ずあるため、クラスの子と接する機会が多いので、毎回朝のホームルームなどでは、生徒達の様子を観察し、行事などで変わるクラスの雰囲気や早くつかめるように工夫しました。そうしていく中で、生徒が私の名前を覚えてくれ、生徒からあいさつしてくれたり、話しかけてくれたりするようになり、とても嬉しく感じました。また、合唱祭の練習では、リーダーをはじめ先生、クラスが一つの目標に向かって団結する姿も見ることができ、自分もこんな雰囲気の良いクラスを作りたいと思いました。

保健体育の授業では、毎回違う種目の授業に出て、それをローテーションする形で参加しています。私の専門競技はバスケットボールなので、バスケットボールの授業では、シュートなどの技術を教えることも、見本となることもできました。しかし、その他の経験したことのない競技では自分の知識も少なく、もっと勉強しなければならぬと感じました。そのような競技は生徒の中に混じって一緒に運動するかたちでしたが、スポーツと一緒にやることでコミュニケーションが増え、また打ち解けあえるというスポーツの魅力も改めて感じました。

毎回授業にはねらいがあります。そのねらいは学年によっても違います。例えば、バスケットボールの授業で1、2年生の最終的なねらいは「ボール操作に慣れ、空いているスペースを使い、ゴール前の攻防ができる」、3年生では「安定したボール操作で空いている場所を作り出し、試合・審判をすることができる」などです。そのために、毎回の授業のめあてを決めています。そして、ルールを変えることなど、工夫した

授業になっていました。とても印象的だったのは、授業の最初と最後に先生が生徒へ「ルール変えてほしいところとか要望ある？」と聞いていたことです。いい授業とは工夫して、生徒の意見に耳を傾けながら授業を生徒と作っていくことなのかなと考えました。

最初は不安と緊張から始まりましたが、活動している半日間はとても時間が経つのが早く感じ、充実した時間となりました。ATをやらせていただいて、先生、生徒と関わる中で教師の魅力を強く感じました。また自分の未熟さがよくわかり、もっと学びたいと思いました。これからATとして生徒、先生と関わっていき、日々成長できるよう努めたいです。

## 自分の非力さ

### 人間科学科4年 大谷絵里

私は今年度の前期から、横浜市立老松中学校でボランティア活動をしています。後期に入り前期と比べて感じることは、まず先生方との関係が濃くなったことです。先生方はとても生徒想いであり、私に困ったことがあれば相談に乗ってくれ、私にはどうにもできないことがあると助けてくれることにとっても有難く感じています。そのおかげと、生徒と接する時間が増えたことによって、生徒のことが前期より見えてきたような気がしています。

私がいる、教室へ行けない子ども達の逃げ場となっているOSという部屋に来る生徒は前期と比べて増えました。中3の女子のSさんと中1の女子のMさんがよく来てくれるようになりました。多い時では4人くらいの生徒がいて、前期ではなかったことなので驚いています。まず人数が増えて嬉しいことは、部屋が賑やかになったということです。また生徒としても、私だけでなく他の学年の違う生徒と会話することで、視野も広がり生徒達の安心感も増えるのではないかと思います。人数が増えていくわけには、「水曜日にはここに来る」と言ってくれる生徒や、そう言い

始めて学校に来るうちに他の曜日も来られるようになったという生徒がいることです。

こういった嬉しいことがある反面、人数が増えて難しいと感じることは、同時に4人を見ることはできないということです。それぞれ話したいことがあり、OSに来る目的も様々で、自分ひとりの手では負えないといった力不足感を感じます。また、人数が増えて悩むことは、人数が増えることで小さな社会がそこに生まれるということです。私との一対一ならば、さほどの問題はありませぬ。ただこれが生徒4人来るだけで、少し混み合った人間関係が生まれます。OSに来る生徒達のほとんどは人間関係が上手く作れず悩んでいて、逃げ道としてOSがあるのに、OSに逃げ込んでも人間関係で揉めていては、せっかくの逃げ道がなくなってしまいます。先日も、OSに来た生徒が言い合いになり喧嘩にまで発展してしまいました。決して喧嘩は悪いことではなく、人間関係を築くための経験としてとても必要なことだとは思っているのですが、ただストレスから解放されたいと思っている生徒には、あまりよくないと私は思います。先日の喧嘩の際には、私はどうしたらいいかわからず先生を頼ることしかできませんでした。

私は、これからもみんなの学校へ行くきっかけとなる存在になれるよう頑張り、喧嘩などが起きた時に、自分で対処できるように生徒達や先生方と関わりあっていきながら考えたいと思います。



発行日: 2015年2月14日

発行所: 神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)

TEL: 045-481-5661(内線4352)

FAX: 045-413-4154

E-mail: jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

URL: [http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher\\_training\\_course/jysp/](http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp/)